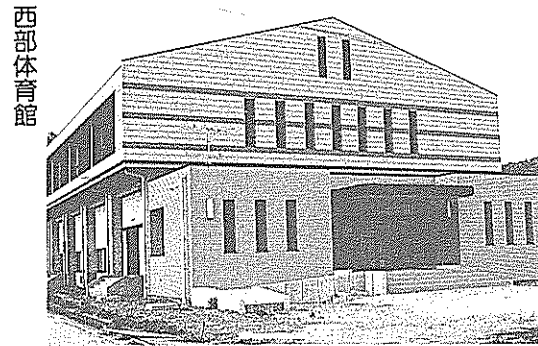


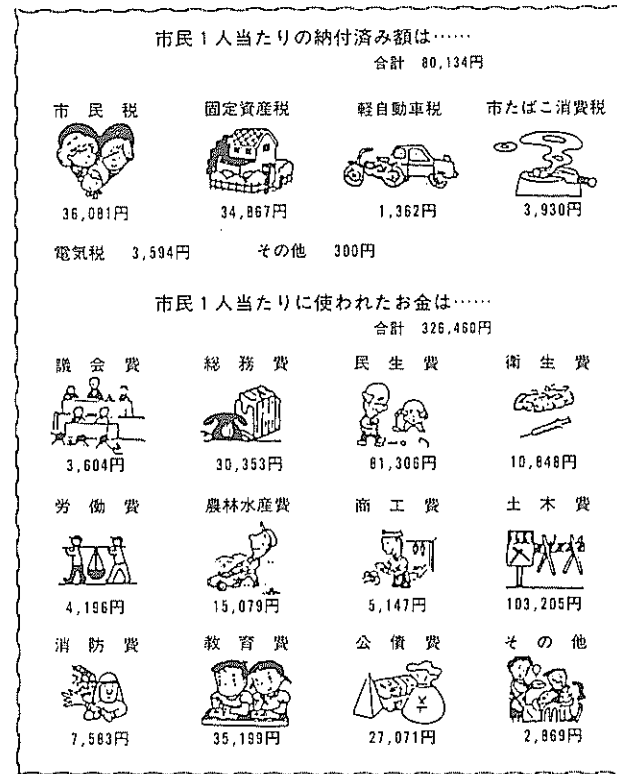
63年度
決算見込

5,993万円の黒字

経常収支比率



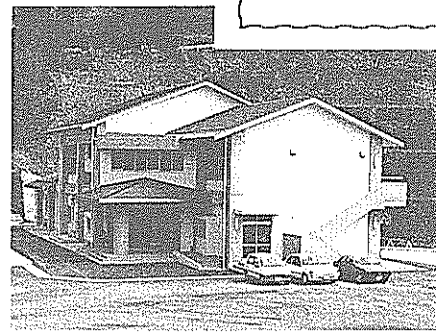
西部体育館



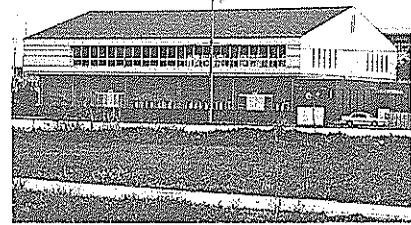
人件費削減が 大きな課題

特定財源への依存度が五〇・四割と高く、地方債借入残高も前年度より一億二千八百五十万円の増加しています。財政構造上の弾力性を示す経常収支比率は、八二・四割で、前年度より三・八割低くなっています。なお、九市の平均より高く、特に人件費は三九割を占め、九市の平均三一・五割を大きく上回っており、財政の健全化のためには、この削減が

大きな課題と云えそうです。また、小集落地区改良事業をはじめ、し尿処理施設、廃棄物最終処分施設、下水道等市民生活に不可欠な施設整備のための財源確保、六十三年度末で十三億円残っている開発公社の負債解消を図っていくことが必要です。

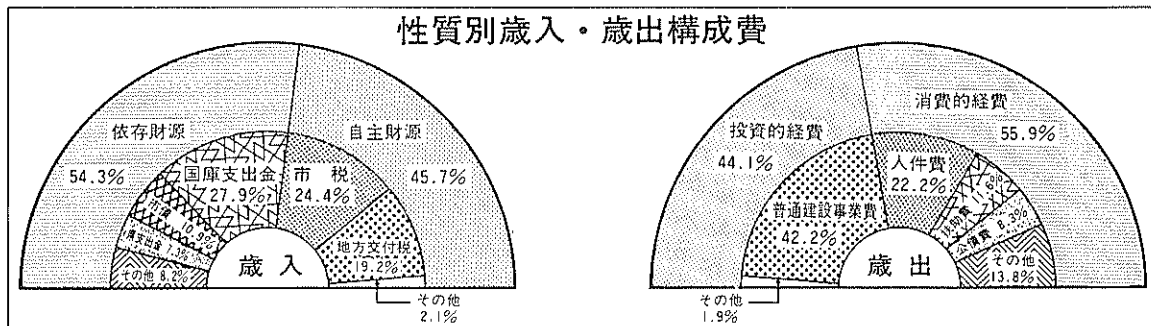


奈路小学校



香南中学校屋内運動場

性質別歳入・歳出構成費

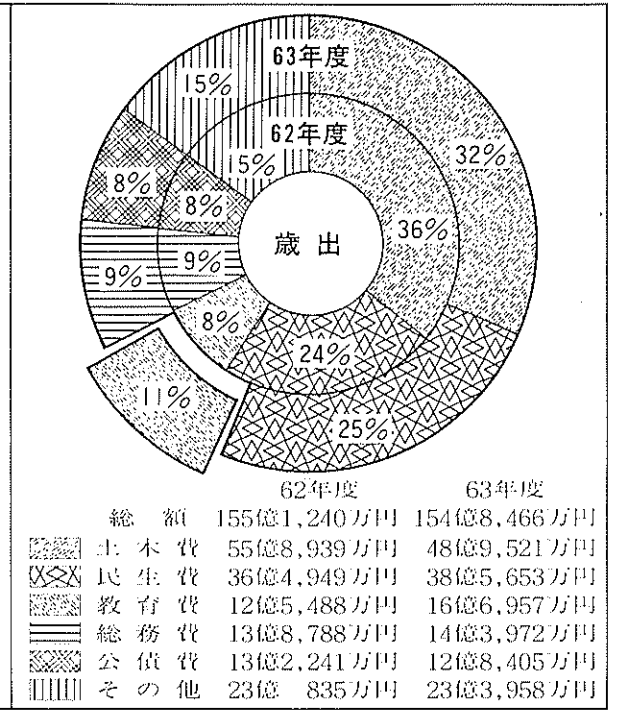
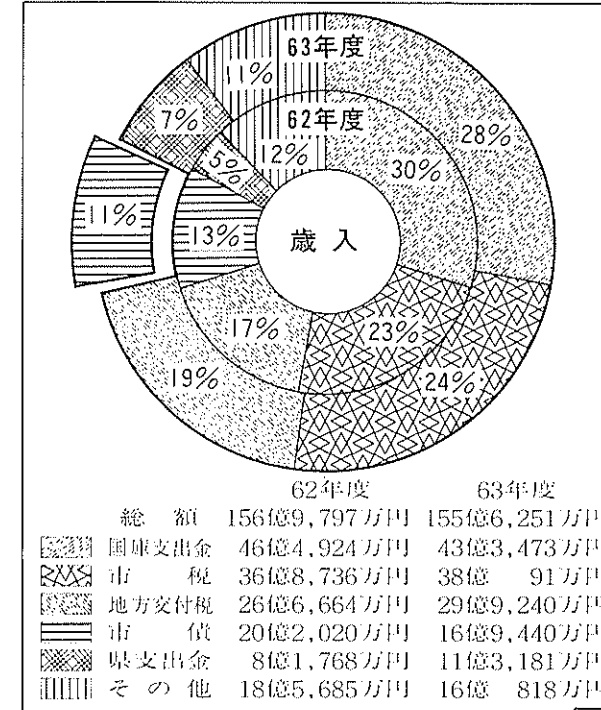


財政状態若干好転

前年度より下がる

63年度歳入決算対前年度比較

63年度歳出決算対前年度比較



市税の内訳

市民税	17億1,138万円
固定資産税	16億5,382万円
市たばこ消費税	1億8,643万円
電気税	1億7,409万円
その他	7,519万円

このほど昭和六十三年年度の決算見込額が明らかになりました。普通会計は、歳入百五十五億六千二百五十一万円、歳出百五十四億八千四百六十六万円で、差し引き七百八十五万円の黒字。このうち、平成元年度へ繰り越すべき財源一千七百九十二万円を差し引いた実質収支は、五千九百九十三万円の黒字、前年度の実質収支が二千六百七十八万円であったため、単年度収支も三千三百十五万円の黒字となりました。また、今後の財政運営のために五千四百十八万円を財政調整基金として積み立てました。

教育費が伸びる

歳入総額は、前年度に比べ、一億三千五百四十六万円の減額。一般財源が六・五割伸びており、若干好転していますが、依然として特定財源に依存しています。市債の減額は、小集落地区改良事業債などの減によるもの。歳出総額は、前年度に比べ、二千七百七十四万円の減額。学校教育施設や社会教育施設の整備によって教育費が増えました。土木費は前年度より減っています。また、負債解消のための開発公社への支払いが増えています。

63年度の重要な建設事業 (百万円)

事業	事業費
小集落地区改良事業	4,136
奈路小学校校舎増改築	244
白木谷小学校屋内運動場	166
桶生保育所増改築	133
香南中学校屋内運動場増改築	127
県単土地改良事業	114
西部体育館新築	78